

(様式1)

# 環境配慮検討書

勢農 第 3613 号  
令和5年 1月26日

三重県環境調整システム推進会議 会長 様

伊勢農林水産事務所長

三重県環境調整システム推進要綱第4条の規定に基づき提出します。

対象事業の名称	大湊2期地区 海岸保全施設整備事業	
連絡先	担当課所名	伊勢農林水産事務所 農村基盤室 農地海岸保全管理課
	電話番号	0596-27-5171

1 事業の計画の名称、目的及び内容

(1)名称	大湊 2 期地区 海岸保全施設整備事業	
(2)目的	当該地区海岸の堤防は築40年以上が経過し、部材の経年変化及び波力等の影響による損傷が著しく、堤防の機能低下が進行しているため、破堤を防止するための対策が望まれている。本事業は、高潮・高波対策と併せ、地震・津波による破堤を防止し、海岸背後にある資産を防護する。	
(3)事業主体	伊勢農林水産事務所	
(4)計画内容	計画地の位置 位置図は参考図-1参照	三重県鳥羽市浦村町苔ヶ瀬 地先
	建物・施設等の概要 (用途、規模、面積、配置等) 配置図は参考図-2参照	鳥羽海岸 1 5 8 (大湊) 堤防延長 L=1,010.5m 整備延長 L= 100.0m
	用水の使用計画	なし
	エネルギーの使用計画	なし
	雨水、汚水の排水計画	雨水：なし 汚水：なし
	道路・交通計画	なし
	工期	ア)着工の予定時期 イ)完工及び供用開始の予定時期
(5)関連事業計画	なし	
(6)その他	特になし	

2 計画地の社会的条件の現況等

(1)計画地の社会的条件の現況	交通の現況	堤防道路は農業や漁業関係の一般車両が通行する他、サイクリングロードとして指定されている。
	土地利用の現況	整備対象区間の堤防背後地（堤内地）には、池があり、その周りには農地が広がっている。
	水域利用の現況	周辺海域では、牡蠣の養殖が行われている。
	生活関連施設の現況	生活関連施設の立地状況 a. 学校施設：なし b. 医療施設：なし c. 文化施設：なし d. その他：なし
(2)関係法令等による地域の指定・規制状況	自然環境保全地域等の指定状況	自然環境保全地域（地区）、自然公園地域（区域）、鳥獣保護区の指定状況 a. 自然環境保全地域：指定なし b. 自然公園地域：指定あり（普通地域） c. 鳥獣保護区：指定なし
	土地利用規制の現況	都市計画法、農業地域振興法、森林法等の規制状況 a. 都市計画法：規制なし b. 農業地域振興法：規制なし c. 森林法：規制あり（鳥獣害防止森林区域） d. 砂防法：規制なし e. 地すべり等防止法：規制なし f. 急傾斜地災害防止法：規制なし g. 河川法：規制なし h. 海岸法：規制あり（海岸保全区域） i. 文化財保護法：規制なし j. 景観法：規制あり（一般区域(海岸と島の景観ゾーン、眺望保全ゾーン)）

3 計画地の自然的条件の現況

(1)地形 ・地質	文献調査	文献名	令和3年度大潟2期地区(鳥羽158)海岸保全施設整備事業(老朽化対策)地質調査業務委託(伊勢農林水産事務所)		
	現地調査の有無	有・無 (実施日時 令和4年5月~6月)		聴取調査の有無	有・無
	調査結果等	地盤を構成する地層としては、干潟、後背湿地を形成する軟弱な粘性土主体の沖積層の下位に的矢層群(中生代白亜紀)の石鏡コンプレックスが分布している。			
(2)水象	文献調査	文献名	令和4年度版 三重県サステナビリティレポート		
	現地調査の有無	有・無 (実施日時 )		聴取調査の有無	有・無
	調査結果等 河川、湖沼	真孤川の河口に位置する。			
	海域	計画地は熊野灘沿岸奥に位置する。 令和3年度における伊勢湾海域の有機汚濁の代表的な指標であるCODの環境基準達成率は80%、また、海域の富栄養化の原因物質である全窒素・全燐の環境基準達成率は100%となっている。			
(3)気象・ 大気質等	調査の方法	津地方気象台資料(1991年~2020年) 令和4年度版 三重県サステナビリティレポート			
	調査結果	<p>計画地最寄り(鳥羽)の観測データは次のとおり</p> <p>気温 : 平均気温 15.6 降水量 : 平均降水量 2,428.5mm 最多風向 : 北北西 風速 : 平均風速 2.2m/s</p> <p>計画地最寄り(鳥羽市及び伊勢市)の観測データは次のとおり</p> <p>大気質 : 二酸化硫黄 0.000ppm (伊勢市) 二酸化窒素 0.003ppm (鳥羽市) 浮遊粒子状物質 0.010mg/m3 (鳥羽市) 微小粒子状物質 6.3 µg/m3 (鳥羽市)</p> <p>騒音 : 環境騒音 昼間42~50dB、夜間36~40dB (伊勢市) 自動車交通騒音 昼間65~67dB、夜間56~60dB (伊勢市)</p>			

(4)生態系等	文献調査	文献名	-																																																																			
	現地調査の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無 (実施日時 植物：令和4年8月9日(夏季)、11月11日(秋季) 動物：令和4年8月25～26日(夏季)、10月26～27日(秋季))		聴取調査の有無	有・ <input checked="" type="radio"/> 無																																																																	
	調査結果等植物	植生の概要： 海岸堤防周辺は主に植栽樹林であった。また、西側は主にヨシ群落、東側は主にセイタカアワダチソウ群落及びヤマアワ群落がみられた。 確認された植生の面積は、以下に示すとおりである。																																																																				
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">面積(m<sup>2</sup>)<sup>注</sup></th> </tr> <tr> <th>夏季</th> <th>秋季</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>落葉広葉樹林</td> <td>ヌルデ-アカメガシワ群落(低木林)</td> <td style="text-align: center;">722.3</td> <td style="text-align: center;">653.7</td> </tr> <tr> <td>植林地(その他)</td> <td>植栽樹林群</td> <td style="text-align: center;">257.3</td> <td style="text-align: center;">257.3</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">その他の低木林</td> <td>ネザサ群落</td> <td style="text-align: center;">19.2</td> <td style="text-align: center;">19.2</td> </tr> <tr> <td>ノイバラ群落</td> <td style="text-align: center;">15.2</td> <td style="text-align: center;">28.7</td> </tr> <tr> <td>多年生広葉草本群落</td> <td>セイタカアワダチソウ群落</td> <td style="text-align: center;">1,243.8</td> <td style="text-align: center;">1,489.4</td> </tr> <tr> <td>単子葉草本群落</td> <td>ヨシ群落</td> <td style="text-align: center;">1,464.7</td> <td style="text-align: center;">1,514.5</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">単子葉草本群落(その他の単子葉草本群落)</td> <td>シナダレスズメガヤ群落</td> <td style="text-align: center;">117.7</td> <td style="text-align: center;">117.7</td> </tr> <tr> <td>ススキ群落</td> <td style="text-align: center;">259.8</td> <td style="text-align: center;">224.0</td> </tr> <tr> <td>ヤマアワ群落</td> <td style="text-align: center;">962.9</td> <td style="text-align: center;">780.2</td> </tr> <tr> <td>沈水植物群落</td> <td>リュウノヒゲモ群落</td> <td style="text-align: center;">68.0</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td>1年生草本群落</td> <td>オオイヌタデ-オオクサキビ群落</td> <td style="text-align: center;">17.7</td> <td style="text-align: center;">17.7</td> </tr> <tr> <td>自然裸地</td> <td>自然裸地</td> <td style="text-align: center;">716.4</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">人工構造物</td> <td>コンクリート構造物</td> <td style="text-align: center;">57.8</td> <td style="text-align: center;">57.8</td> </tr> <tr> <td>道路</td> <td style="text-align: center;">855.2</td> <td style="text-align: center;">842.7</td> </tr> <tr> <td>開放水面</td> <td>開放水面</td> <td style="text-align: center;">1,243.5</td> <td style="text-align: center;">2,018.5</td> </tr> <tr> <td></td> <td>計</td> <td style="text-align: center;">8,021.5</td> <td style="text-align: center;">8,021.4</td> </tr> </tbody> </table>		区分		面積(m <sup>2</sup> ) <sup>注</sup>		夏季	秋季	落葉広葉樹林	ヌルデ-アカメガシワ群落(低木林)	722.3	653.7	植林地(その他)	植栽樹林群	257.3	257.3	その他の低木林	ネザサ群落	19.2	19.2	ノイバラ群落	15.2	28.7	多年生広葉草本群落	セイタカアワダチソウ群落	1,243.8	1,489.4	単子葉草本群落	ヨシ群落	1,464.7	1,514.5	単子葉草本群落(その他の単子葉草本群落)	シナダレスズメガヤ群落	117.7	117.7	ススキ群落	259.8	224.0	ヤマアワ群落	962.9	780.2	沈水植物群落	リュウノヒゲモ群落	68.0	-	1年生草本群落	オオイヌタデ-オオクサキビ群落	17.7	17.7	自然裸地	自然裸地	716.4	-	人工構造物	コンクリート構造物	57.8	57.8	道路	855.2	842.7	開放水面	開放水面	1,243.5	2,018.5		計	8,021.5	8,021.4	注：小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計面積が異なる場合もある。	
区分		面積(m <sup>2</sup> ) <sup>注</sup>																																																																				
		夏季	秋季																																																																			
落葉広葉樹林	ヌルデ-アカメガシワ群落(低木林)	722.3	653.7																																																																			
植林地(その他)	植栽樹林群	257.3	257.3																																																																			
その他の低木林	ネザサ群落	19.2	19.2																																																																			
	ノイバラ群落	15.2	28.7																																																																			
多年生広葉草本群落	セイタカアワダチソウ群落	1,243.8	1,489.4																																																																			
単子葉草本群落	ヨシ群落	1,464.7	1,514.5																																																																			
単子葉草本群落(その他の単子葉草本群落)	シナダレスズメガヤ群落	117.7	117.7																																																																			
	ススキ群落	259.8	224.0																																																																			
	ヤマアワ群落	962.9	780.2																																																																			
沈水植物群落	リュウノヒゲモ群落	68.0	-																																																																			
1年生草本群落	オオイヌタデ-オオクサキビ群落	17.7	17.7																																																																			
自然裸地	自然裸地	716.4	-																																																																			
人工構造物	コンクリート構造物	57.8	57.8																																																																			
	道路	855.2	842.7																																																																			
開放水面	開放水面	1,243.5	2,018.5																																																																			
	計	8,021.5	8,021.4																																																																			
	貴重な植物個体： 現地調査により確認された貴重な植物は、下表に示すとおりである。																																																																					
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種名</th> <th colspan="2">確認時期</th> </tr> <tr> <th>夏季</th> <th>秋季</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>リュウノヒゲモ</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>「環境省レッドリスト2020の公表について」(令和2年、環境省)の掲載種            NT：準絶滅危惧            「三重県レッドデータブック2015～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～」(平成27年、三重県)の掲載種            EN：絶滅危惧IB類</p>				種名	確認時期		夏季	秋季	リュウノヒゲモ																																																												
種名	確認時期																																																																					
	夏季	秋季																																																																				
リュウノヒゲモ																																																																						
	貴重な植物群落：貴重な植物群落は確認されなかった。																																																																					

(4)生態系等	動物	動物相の概要： 現地調査により確認された動物の概要は、下表に示すとおりである。																																																																
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>分類群</th> <th>夏季</th> <th>秋季</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鳥類</td> <td>(未実施)</td> <td>16種</td> <td>13科16種</td> </tr> <tr> <td>爬虫類</td> <td>0種</td> <td>1種</td> <td>1科1種</td> </tr> <tr> <td>両生類</td> <td>4種</td> <td>1種</td> <td>3科4種</td> </tr> <tr> <td>昆虫類</td> <td>185種</td> <td>53種</td> <td>100科227種</td> </tr> <tr> <td>底生生物</td> <td>18種</td> <td>24種</td> <td>29科36種</td> </tr> </tbody> </table>	分類群	夏季	秋季	計	鳥類	(未実施)	16種	13科16種	爬虫類	0種	1種	1科1種	両生類	4種	1種	3科4種	昆虫類	185種	53種	100科227種	底生生物	18種	24種	29科36種																																								
分類群	夏季	秋季	計																																																															
鳥類	(未実施)	16種	13科16種																																																															
爬虫類	0種	1種	1科1種																																																															
両生類	4種	1種	3科4種																																																															
昆虫類	185種	53種	100科227種																																																															
底生生物	18種	24種	29科36種																																																															
		貴重な動物： 現地調査により確認された貴重な動物は、下表に示すとおりである。																																																																
		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">分類群</th> <th rowspan="2">種名</th> <th colspan="2">確認時期</th> <th colspan="2">貴重な動物の選定</th> </tr> <tr> <th>夏季</th> <th>秋季</th> <th>1</th> <th>2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鳥類</td> <td>ミサゴ</td> <td></td> <td></td> <td>NT</td> <td>繁NT</td> </tr> <tr> <td>両生類</td> <td>トノサマガエル</td> <td></td> <td></td> <td>NT</td> <td></td> </tr> <tr> <td>昆虫類</td> <td>エンスイミズメイガ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>DD</td> </tr> <tr> <td rowspan="7">底生生物</td> <td>ウミニナ</td> <td></td> <td></td> <td>NT</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ヘナタリガイ</td> <td></td> <td></td> <td>NT</td> <td></td> </tr> <tr> <td>カワアイガイ</td> <td></td> <td></td> <td>VU</td> <td>NT</td> </tr> <tr> <td>エドガワミズゴマツボ</td> <td></td> <td></td> <td>NT</td> <td>NT</td> </tr> <tr> <td>コヤスツラガイ</td> <td></td> <td></td> <td>NT</td> <td>DD</td> </tr> <tr> <td>トガリユウシオガイ</td> <td></td> <td></td> <td>NT</td> <td>NT</td> </tr> <tr> <td>ムツハアリアケガニ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>DD</td> </tr> </tbody> </table>	分類群	種名	確認時期		貴重な動物の選定		夏季	秋季	1	2	鳥類	ミサゴ			NT	繁NT	両生類	トノサマガエル			NT		昆虫類	エンスイミズメイガ				DD	底生生物	ウミニナ			NT		ヘナタリガイ			NT		カワアイガイ			VU	NT	エドガワミズゴマツボ			NT	NT	コヤスツラガイ			NT	DD	トガリユウシオガイ			NT	NT	ムツハアリアケガニ				DD
分類群	種名	確認時期			貴重な動物の選定																																																													
		夏季	秋季	1	2																																																													
鳥類	ミサゴ			NT	繁NT																																																													
両生類	トノサマガエル			NT																																																														
昆虫類	エンスイミズメイガ				DD																																																													
底生生物	ウミニナ			NT																																																														
	ヘナタリガイ			NT																																																														
	カワアイガイ			VU	NT																																																													
	エドガワミズゴマツボ			NT	NT																																																													
	コヤスツラガイ			NT	DD																																																													
	トガリユウシオガイ			NT	NT																																																													
	ムツハアリアケガニ				DD																																																													
		貴重な動物の選定基準 1：「環境省レッドリスト2020の公表について」（令和2年、環境省）の掲載種 VU：絶滅危惧II類、NT：準絶滅危惧 2：「三重県レッドデータブック2015～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～」（平成27年、三重県）の掲載種 NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、繁：繁殖個体																																																																

(5)自然景 観・文化 財等	文献調査	文献名	伊勢志摩国立公園区域及び公園計画図 三重県埋蔵文化財センター 鳥羽市文化財マップ	
	現地調査の有無	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 (実施日時 )	聴取調査の有無	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無
	調査結果等 自然景観	<p>自然景観の概要：計画地の堤防前面は、干潮時には干潟となる。堤防背後には、池があり、ヨシ群落及びセイタカアワダチソウ群落、ヤマアワ群落が見られ、さらには農地が広がっている。</p> <p>貴重な自然景観：なし</p>		
	文化財、史 跡、名勝等	<p>史跡・名勝・天然記念物：なし</p> <p>埋蔵文化財包蔵地：なし</p>		
	野外レクリエー ション 他	特になし		
(8)その他、 自然災害 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 昭和19年 昭和東南海地震</li> <li>・ 昭和35年 チリ地震津波</li> <li>・ 昭和39年 アラスカ湾南部近海地震津波</li> <li>・ 平成23年 東日本大震災</li> </ul>			

#### 4 事業計画の検討内容（複数案比較）

\*用地選定が異なる計画、同じ用地での異なる計画等との比較を行う。比較検討用の位置図を添付すること。

	事業計画案	比較検討案
(1)計画の概要	傾斜護岸	重力式護岸 + 杭構造
(2)環境評価（*左欄に を相対評価で記入し、右欄に評価の理由を記入） 循環を基調とした持続的発展が可能な社会の構築 人と自然が共にある環境の保全 やすらぎとつるおいのある快適な環境の創造		
-1 地球温暖化防止	建設機械が小型であるため、CO <sub>2</sub> 排出量が少ない。	建設機械が大型となるため、CO <sub>2</sub> 排出量が多い。
-2 廃棄物対策	既設堤防を残すため、建設廃棄物の発生量は少ない。	事業計画案に同じ
-3 生活環境の保全	建設機械が小型であるため、騒音が小さい。	建設機械が大型となるため、騒音が大い。
-4 その他重点項目	- 特になし	- 特になし
-1 野生生物等の生育空間の確保	堤防周辺を大きく変更しないため、野生生物等への影響は少ない。	事業計画案に同じ
-2 希少な野生生物の保護	必要最小限の仮設とし、野生生物への影響を最小限にする。	事業計画案に同じ
-3 地形、地質等の変更の抑止	堤防基礎部を地盤改良するため、わずかに地質の変更あり。	堤防基礎部に杭を打つが、地質の変更はない。
-4 その他重点項目	- 特になし	- 特になし
-1 緑化、周辺景観との調和	堤防天端高は変更しないため、周辺景観は事業前と変わらない。	事業計画案に同じ
-2 親水等、ふれあい空間づくり	- 特になし	- 特になし
-3 その他重点項目	- 特になし	- 特になし
上記以外の特記事項	- 特になし	- 特になし

#### 5 事業計画案の環境配慮に係る評価

長 所	大型の建設機械を使用しないため、CO <sub>2</sub> 排出量及び騒音の抑制が期待される。
短 所	特になし
会議で調整を要する事柄	特になし

参考図-1 位置図



参考図-2 配置図

